

2023 年役員交流会(10/7)感想

●
外国にルーツを持つ信徒の皆さんが、教会に集まることに喜びを感じていらっしゃる、ということを感じました。準備のために早めに集まってきたり、ミサ後のおしゃべりを楽しんだり……そんなお話を聞いて、生き生きとした人々の集まりである、教会の良さを感じます。50 年ほど前の、多くの青年が集まっていた教会には元気さがあったころを思い出します。今の日本の信徒は、祈る姿やミサ中の所作もきっちりしていなければならない、と思っている方が多いように思います。きちんとしていることが大切で、楽しく祝う気持ちは少ないのではないのでしょうか。正しいことは重要ですが、自分の基準を人に押しつける雰囲気が強ければ、教会の間口は狭くなり、いよいよ元気さに欠けてしまうのではないかと反省します。典礼は、正しさよりも、共に祝う豊かさという観点が必要だと思います。また、仕事の分担に知恵を絞ることよりも、集まって笑顔を分かちあえる教会になれたらいいと思いました。

●
個人的には初めての交流会で緊張もしましたが、分かち合いでは司会の方が上手に進めてくださり、良い時間を持つことができました。

外国籍の信徒の方との関係は各教会の特色があることがわかりました。

母国語でのミサがあると、教会にも来やすいでしょうし安心だろうと思っていましたが、それによって日本人とのグループ分けのような形がはっきり出来てしまい、交流がなくなってしまうことも知りました。

教会内だけでなく、どんな場面でも外国籍の方と仲良くなるには、やはりお互いの言語を学ぶことが必須だと感じました。

良い交流会をありがとうございました。

●
最初に、リモートミーティング自体が初めての経験で、パソコンの画面に向かって声を出すことに正直ストレスを感じていましたが、徐々に慣れてきまして、今更ながら技術の進歩に改めて驚いた次第です。MC を決めることはなく、互いに自由に発言ができたのではないかと思います。

これまでに訪問機会のない他教会の皆様から現況を伺い、環境の差に気づかされました。

定住されているいくつかの国籍の方、留学生の方、ビジネス目的の方がいらっしゃいますが、御ミサも日本語のみで他言語による御ミサを行ったことはありません。定住されている方は日本語がお分かりですから、教会活動にも普通に参加されますが、そうでなければ言葉の壁が交流を妨げてい

ることは事実です。小規模でも国際交流のようなことができたらいいなあ、とは考えますが、実行までにはなかなか至りません。例えば、御ミサの最中、私たち日本人は手を合わせている場合が多いですが、最近よくお見かけしますベトナムからの若い女性たちは両腕を組んでいます。国による所作の違いなども紹介しあえたら楽しいし、分かり合えることも多いだろうと思ったりもします。

井の中の蛙ですが、機会があれば他教会の取り組みをもっと知りたいと思いました。役員としては今年と来年で、その間にきっかけ作りができればと願っております。有難うございました。

●
各教会の様子を伺えたり、若い意欲的な外国の方の取り組みに将来の教会の明るい未来が感じられてよかったです。

●
分かち合いについて、他の教会の方たちの教会の様子など伺うことができました。教会の役員さんたちも高齢化となり、以前のように活動を行うことが難しくなり、今後は外国の方たちとも協力して、一緒に教会活動（例えばバザーなど）を行っていききたい、以前のように合同ミサを行っていききたいなど、皆さん同じような状況であることがわかりました。

コミュニティが別々で活動するのではなく、共に歩いていくことが大切なのだと、この交流会や分かち合いを通して、改めて学ぶことができました。
ありがとうございました。

●
分かち合いで、外国語のミサ（英語、スペイン語、ベトナム語、タガログ語、）に分かれてしまいますます疎遠になっている状況を話した中で、逆に日本人が外国語のミサにあずかり交流することも必要じゃないか？とロサさんからの話に、なるほどと心に沁みました。

●
ロサさんの発表はとても愛情を感じました。

- ・久しぶりに来た子供達を喜んで迎える。
- ・勉強とイベントを沢山する問題を乗り越えるためによく話し合う。
- ・来たいと思えるような教会に。
- ・自分の居場所と思えるように。
- ・学習、勉強の支援をしていく。
- ・みんなで子供達を守っていく。

一つ一つとっても思いやりと根気がなければできないことで、素晴らしいと感じました。

ベトナムの方たちが沢山来ています。ナン神父が来て下さり、ベトナムのシスターと共に指導を熱心に行われ、ベトナムのミサでの彼らの熱心な姿勢は日本の信徒たちも感心しておられます。

ミーティングの最後には、外国人の子供たちの教育どころか、日本の子供たちに私たちができてなかった事への反省になり、日本のテーマに戻ってしまいます。

共に祈る、共に食べる、共に作業する。同じ信仰に生き、同じミサに与れることのすばらしい恵みを頂いている事をもっとアピールした方が良いというまとめに共感しました。

初めてのズームに緊張しましたが、私の声が音声にはいらなくて、何も発言はしませんでした。ロサさんの熱心さ、外国の方々の熱心さに感心しました。



今年、新メンバーばかりで、役員交流会も初めての経験をさせていただいています。

上野教会のオシャンテさんのお話、活発な多文化共同体の実践と活動に、教会の未来があるように思えて、とても大きい励ましをいただきました。

言葉の壁や文化の違いは、当然あるけれど、交流を積み重ねていくことの大切さを学びました。

小規模で高齢者が多いのですが、昨年、フランス人の若い奥さんが、2人の子どもさんをつれて、来てくださり、教会がパッと元気に明るくなりました。いま、クリスマスにむけて、手作りバザーをして寄付しましょうと、提案して下さり、行うことになりました。

今回の会議の参加もフィリピン人のフェリタさんと、一緒に参加して、そのことも交流になりました。

高齢者は、保守的になりがちですが、これからは、ゆっくりと茶話会のなかでの交流から、なにかが生まれてくることを、祈り願っています。話しあいのなかで、オシャンテさんから、分かち合いという、ハードルが高いので、茶話会のなかで、今日の神父さまのお説教の話など気楽にしていけたらいいとか、少ない人数でもできることを考えてやっていくなどのお話に、元気をいただきました。

その後、前回の研修会も含めて、気づかせていただいたことがありました。

多言語が交じり合うミサが、普通なんだということが、遅ればせながらわかり、意識が変わってきました。

一昨年ごろから、ベトナム籍の女性の方が、とても熱心に日本語を勉強なさっていて、日本語で聖書朗読をしてくださり、その熱意にみんなが、感動させていただく場面が何回もありました。

それ以来、なんとなく、日本語で朗読することが、普通になっていたのですが、だんだん、母国語で、朗読するのもいいという流れが自然にできてきました。いつも、日本語で朗読されていた、フランス人の女性が、その日はフランス語で朗読されたことがありました。その方がとても、伸び伸びと力強く朗読しておられる感じがして、言語は理解できないのですが、感銘をうけたという経験がありました。

その思いは、私一人ではなかったと思います。そんなこともあって、外国籍の方々は、だんだんと、

母国語で朗読されるようになっていて、私はそれが、いいなあと思わせてもらっています。

日本人の私たちは、逆にもっと多言語に関心をもって、片言でも近づこうとするなかで、親しみのある交流が進むのではないかと思うこの頃です。



いろんな国々から日本へ来て、心のよりどころとなるのが教会である、と思う。出身国によってミサに対する考え方が違うことをよく理解し、話し合い、進めていくことが必要である。

邦人信徒の後期高齢化、少子化、コロナ禍による信徒の減少を考えると、外国信徒の協力や支えが必要で、共同運営という選択を考える必要がある。

同じ信仰を持つ者同志、理解しあい、協力し合い、支えあい、豊かな信仰生活を目指して努力をしていくことが大切である。